

辛い時こそ、人のために

岐阜市立長良中学校 3年

遠藤さら（えんどうさら）

「コロナウイルスさえなければ・・・。」

私はコロナウイルスが嫌いです。なぜなら、大好きな友達と遊べなくなったり、給食を楽しく話しながら食べられなくなったり、合唱ができなくなったりするからです。また、部活動も制限され、運動会や宿泊研修も行えるか分からないのです。大好きな友達と一緒に過ごせるのはあと少しなのに。「コロナウイルスさえなければ・・・。」と怒りが込み上げてくるのがたくさんあります。

しかし、このような生活が1年以上続くと「少くらしい外出してもいいか」「少くらしい密になっても大丈夫だろう」「周りでコロナに感染している人もいないし、消毒をしていればいいだろう。」という軽く、甘い考えが生まれてきました。

そんなある日、細かく手洗いや消毒を求めてくる母に「そんな簡単にコロナに感染しない!もう我慢の限界!」とイライラをぶつけました。すると、たまたま家に来ていた伯母が「大切な人を亡くしてもいいの?」「大切な家族や友達と一生会えなくなってもいいの?」と私に重い口調で言いました。

「・・・。」

私は何も答えることができず、唇をかんで下を向いてしまいました。さらに、伯母は「限界って何?イライラする気持ちは分かるけど、大切な人の命を守るためだよ。すぐに『限界』って言わないで。辛い時こそ、人のために何かできるかが大切なんじゃない?」と目に涙を浮かべながら、声を震わせながら言いました。伯母は看護師です。目の前で苦しむ人をたくさん見ていました。目の前で救いたくても救えない命をたくさん見ていました。

私は心が痛くなりました。心が苦しくなりました。また、とても恥ずかしくなりました。さらに、とても悔しくなりました。

そして、これらの言葉が私の考えを変えさせました。

それから私は、自分自身が手洗いや消毒を徹底するのはもちろん、学校でもソーシャルディスタンス棒というものを作り、適切な距離を取るよう呼びかけをしました。

また、心にずっと残っている伯母の「辛い時こそ人のために」という言葉。私が人のために何かできることはないだろうかと思死に考えました。そんなとき、学校で医療従事者に関わる動画を見ました。医療従事者のために何かをしたい、そう強く思いました。そこでフェイスシールドを作れないか先生に提案してみました。それは実現され、学年で300枚以上のフェイスシールド作り、感謝の気持ちを込めた手紙とともに病院に届けることができました。誰かのために動くことって楽しい、誰かの役に立てるって嬉しい、心が開かれたようで、とても清々しい気持ちになりました。

伯母の話聞く前は、「自分さえよければ・・・。」と、自分のことしか考えていない自分でした。でも、話を聞いてからは「人のために」という視点をもつことができ、人のために動く楽しさ、充実感を得られるようになりました。

私の将来の夢は医者です。コロナの中、自分よりも目の前の患者のことを考えて、命を懸けて戦っている医療従事者の方々。「辛い時こそ、人のために」力を尽くす医療従事者の方々。そんな人間に私もなりたいです。そのために、今日も周りの仲間を笑顔にさせます。